社団法人　工学院大学校友会　第115号 42巻第1号　平成6年4月

校友会報 115

目　次

ますます〈自力更生〉
南雲　芳夫 …… 1
校友会と学園
北郷　　薫 …… 2
学長就任のご挨拶
大橋　秀雄 …… 3
工学院大学学園の未来像
木村　雄二 …… 4
大学の研究所とQuality
間宮眞佐人 …… 5
エステック情報協会
丹羽　宏之 …… 6
全国大会開催にあたり
岡本　聖治 …… 7
カヌーを通して
高橋　秀樹 …… 8
故ハナ肇さんと東京支部
坂田　佳昭 …… 9
学園だより …… 11
学園本部　大学
専門学校　高等学校
部会報告 …… 14
皆さんの支部では今…？
三輪伸太郎 …… 16
支部総会開催予定 …… 17
全国大会開催のお知らせ …… 18
お知らせ …… 19
総会開催のお知らせ …… 20
平成5年度
事業報告書 …… 20
収支計算書 …… 21
貸借対照表 …… 21
財産目録 …… 21
平成6年度
事業計画（案） …… 22
収支予算書（案） …… 22

●ごあいさつ

ますます〈自力更生〉

社団法人　工学院大学校友会
会長　南雲　芳夫

昨年の会報には「早くも一年が過ぎてしまいました」と記しました。本年も「瞬くうちの二年間でした」と言わざるを得ません。会長として十分な展望を示すこともできず、校友各位の全学園に対する熱い思いを汲み掬い上げることもままならなかった。反省しきりという所です。

悔やまれることの多い二年間でしたが、この年月のお陰で、全国の支部を拠点として多数の校友諸氏と面識を得ることができました。勿論、各位が抱えている支部活動の困難さ、学園の活性化のために校友として何ができるのかの悩み等々、時には盃を交わしながら語り合うこともしばしばでしたが、校友という唯一の基盤だけで人と人との触れ合いができるという実感が何よりも嬉しかった。ですから、校友会活動というものも、日常的な交流の幾層もの上に大きな支部活動や大会が成立していくとの念をますます強くしました。自力でまかなえる範囲の校友会活動を少しでも多く育てていきたいものです。「晴れ（よそゆき）」の場を全国大会や支部総会とするならば、日常的な支部、部会あるいは同窓・同級間の活動は、「褻〔ケ〕（よそゆきでないこと）」ということになるでしょう。従って、「ケ」の存在が生き生きとしていればいる程、「ハレ」もまた活力に溢れて、意味あるものとして大きく飛躍するのではないでしょうか。

今年は第十一回全国大会を兵庫支部のご尽力で開催することができます。兵庫の校友各位に、特にその溢れる熱情にひたすら頭を下げる次第ですが、より大きな成功を収めるためには、各支部に於いて、さらにより小さな単位に於いて、校友の交流こそが需要であると考えます。ついでながら、学園側の理解を得て新宿校舎の中に、会議室やサロンを備えた五十～六十名収容可能な校友会室を用意することができました。小さくとも内容のある親しみに満ちた常日頃の校友の交流に是非使って下さい。

何が大切であるかという点で、今の時代が大きな転換期だとしばしば言及されます。誰もそれ以上の答えは与えてくれない。工学系の学園である私達の母校も、少なくともハード面の重視からソフト面への重視へと学問の立場が移って行くご苦労があると思われます。基礎部門を同時に大事にしながら。しかし、ゴールは自分の力で見つけねばなりません。校友の多くが企業人でしょうから、現在の単なる景気循環論だけでは済まされない構造的不況に立ち向かっておられるでしょう。その際、政府の経済対策による回復を当てには誰もしていないはずです。そんな時代じゃありません。自助努力によるリストラを断行せざるを得ないのです。そのリストラも新規投資の抑制や雇用の調整という後ろ向きのものではなく、新分野に進出する方向でのリストラでなければならない、そうでなければ企業は生き残れないと思われます。

今の時代は企業でいえばこのような転換期だと思います。従来のものに依存することはできない小規模でも時代の動向を見据えた自前の判断で自助努力で小規模の所から手をつけていく。全学園と校友会活動の活性化もここに出発点があると思っております。

校友会と学園

学園理事長　北郷　　薫

学園のあるところには、必ず校友会、あるいは、同窓会がある。

本学園の創立は明治20年（1887年）であるが、その翌年の明治21年（1888年）に、本学園の同窓会組織「工談会」が発足し、月刊の会誌「工談雑誌」の創刊号を明治22年（1889年）４月に発行している。

工談会の初代会長は、工手学校長・三好晋六郎であった。三好会長は「告示」において、

「本校卒業生は卒業後、幾多の辛苦をこえて歩み、今もその行程の途中にある。その旅中の孤独の姿を追想し、今後の利便と安息を求めるには、相頼り相助くる親友を得て、ともにこれからの旅路の計画を相談するのがよいであろう」（原文のままではない）と同窓会の設立の意義をのべている。

本学園のなかには、その長い歴史を通じて、多くの学校が創立され、また、廃止・統合された。

これらの各学校別に、また各学校の学科別にそれぞれ同窓会が創立されていたが、昭和53年（1978年）に、各同窓会を下部組織とする形で統合して、現在の「工学院大学校友会」が社団法人として設立され、今日に及んでいる。

（学園百年史P.664～P.730）

校友会の使命は、三好・工談会会長の告示のようにまず、「本学園を卒業した人々が、卒業後それぞれ社会において活動するなかにあって、相互に親睦をはかり、必要な場合には相互に援助し合う場となる」ことである。

この使命を達成するためには、適当な時期と場所で同窓生の「会合」を開催し交流、親睦の機会をつくる「会誌」等を発行、配布して、母校の学園の近況を校友会員に知らせることが必要である。

会合の準備、招集および会誌等の編集、発行、配布は時間と労力を必要とする仕事である。これらの仕事を引き受ける役員および事務局の方々の御苦労は、校友会の発展が校友会関係の会合および会誌に対する同窓生の関心の高さの程度によることを考えれば、十分に報いられる。

学園は、学園内に設立された学校に入学、在学し、卒業した校友諸氏の卒業後の活動を暖かく見守り、可能な限りの援助を考えるべきである。

卒業生の社会における活躍を見ることは、その卒業生の母校の学園にとって何よりの喜びである。

卒業生にとっては、母校の学園が教育、研究界において活躍する姿を見ることが、何よりの喜びであろう。母校である学園の活動が活発であってそれが社会でみとめられれば、それによって卒業生の社会における活動も活性化されることは、明らかである。

このように、校友会と学園とが、お互いに「喜び」を与え合う関係にあることが、双方の発展にとって、何よりも重要なことである。

とくに、学園側にとって「学園から手紙がくるのは、募金の時だけ」などと言われるようではいけない。

学園は、その活動を社会に示すことによって、校友に「喜びの手紙」を送らなければならない。

学園と校友会とが、相互に「喜び」を送り合うときに、双方の大きな発展が期待できる。

学長就任のご挨拶

大橋　秀雄

明治20年の本学創立以来107年、昭和24年の大学開設以来45年、その間特色ある工学教育を実践して８万人を越える技術者を社会に送り出してきた工学院大学。世界史に残る日本の目覚ましい工業発展も、全国に広がってそれを支えてきたわが卒業生に負うところが大きかったと誇らしく思うばかりです。

本年４月、３期９年の長きに亘って本学の発展に大きな貢献をされた北郷薫前学長の後を継いで、５人目の学長に就任することになりました。私は、33年間東大機械工学科で教育と研究を続けた後、一昨年から本学でお世話になっております。私の本学での経歴は未だ２年と浅く、過去の事情に疎いところが多々ございます。このような新人が学長に選出されたのは、激動の時代を前に、過去に囚われず変革を積極的に進めて欲しいという本学教職員の期待の現れだと痛感しております。身に余る重責ではございますが、全力を尽くして任期を全うしたいと思っておりますので、校友の皆様のご支援を心からお願い申しあげます。

平成３年度で終了した創立百周年記念募金による教育・研究設備の拡充、新宿再開発計画にしたがって平成元年７月に完成した高層棟校舎、さらには平成４年９月の中層棟校舎と本学の玄関ともいうべきアトリウムの完成。このように、本学の校舎や設備などの環境整備はお陰様で順調に進展し、新宿副都心で「大学とは信じられない」ような近代的偉容を誇る大学として、また都市・情報指向大学の一つのモデルとして世間の注目を浴びるようになりました。

これも、校友会や後援会の皆様からのご支援を始めとして、歴代関係者の長年の努力が実ったものにほかなりません。このような段階でバトンタッチを受ける新学長としては、この恵まれた環境を十二分に活用して教育および研究の実質をさらに改善し、本学の評価をいっそう高めることが責務であると自認しております。

21世紀の開幕を前にして、政治、経済、そして個人の価値観に至るまで、これまでの常識が急激に変わろうとしています。例えば、企業の大学卒業生に対する期待が変わり始めました。従来は採用に当たって「丈夫な体と協調性さえあればよい、あとは企業内教育で立派な技術者に育て上げる」と言われ続けてきました。学生もこの雰囲気を敏感に感じとり、学生生活を最大限にエンジョイしたものでした。しかし、世界を相手に厳しい経済競争を繰り広げる企業の中では、より即戦力となる技術者の育成を大学と大学院に求める声が強まっています。学生を素材として採用する時代から、必要とする知識や能力の持ち主として採用する時代に変わりつつあります。

現在、終身雇用を一つの柱とする日本型経営の危機が叫ばれています。私は、これまでの産業発展を支えてきた日本型経営が早急に失われるとは信じませんが、雇用の流動化は確実に進んで参ります。終身雇用の場合には殆ど役に立たなかった資格や免許も、ひとたび社外に出れば、個人の価値を客観的に保証する貴重な援軍となります。流動化の流れの中で、資格や免許に対する学生の認識を高め、それを支援する必要があります。

グローバル化。これこそ、21世紀を象徴する最大のキーワードでしょう。企業にとっても個人にとっても、活躍の舞台は世界に広がります。どんなに技術の見識が深くとも、外国語で議論し交渉できる能力がなければ、無知と同等とみなされてしまいます。外国語によるコミュニケーション力は、技術者の必須となります。

以上いくつかの例をあげましたが、21世紀に活躍する学生を教育するには、その時代が求める能力を伸ばす教育体制で臨まなければなりません。これからは、新しい時代の要求を先取りして教育の実質的内容を高め、本学を工学教育の一つの特色あるメッカにしたいと思っております。

在学生も、卒業生も、そしてわれわれ教職員一同も胸を張って誇れる大学に。そしてそれこそが、18歳人口の激減をひかえて私学の危機が叫ばれている困難な時代を前に、本学の歴史と伝統を守り抜く途であると信じております。ご期待とあわせて、重ねて校友の熱いご支援をお願い申しあげます。

工学院大学学園未来像の具体化へのアクションプラン

工学院大学学園教職員組合連合
中央執行委員長　木村　雄二

平成５年10月より工学院大学学園教職員組合連合の中央執行委員長に指名され、活動を開始いたしましたところ、このたび校友会副会長米沢隆男氏ならびに広報部長片岡国牟氏より学園の未来像に関する提言を述べよとのご依頼をいただきました。本年度の組合連合の活動の特徴づけとして、特別委員会の中に「学園未来像作成委員会」を設置し、種々の議論をはじめております関係から、前述のようなご依頼をいただいたものと考え、同委員会の活動状況を踏まえながら、私の意見を述べさせていただきたいと存じます。

今日まで、学園全体としては学園将来計画大綱・要綱を踏まえ新宿再開発に取り組み、現在第３期工事も順調に進捗いたしている状況にあります。進行中の再開発が完成した時点での学園像の議論については、教学分科会報告中に細部にわたる項目について、当時の現状の分析から10年後の目標（今日現在に対応）さらに長期的なスパンでの方向性の議論が十分になされ集約されております。また、平成３年度～５年度の学園の方向性については、理事会より提案されたいわゆる「教学８施策」にポイントを八つに絞り込む形での提案がなされております。したがって、前述の「学園未来像作成委員会」において、これらの提案の Review をおこない、特に、後者の提案については組合連合としての評価を加えるべく現在議論を行なっているところであります。

一方では、この10年間において本学園での未来像に関わる議論が、公式的にはこれら２種類の資料に残る形でしかなされてこなかったことに対して、大いなる驚きと戸惑いならびに大きな不安を感ずるのは私だけでしょうか。

平成５年12月18日（土）に組合連合主催で「学園未来像を考える会；パート１」として、立命館大学から酒井達雄先生をお招きし、「立命館大学における学園未来像―将来計画の策定から計画の実現に向けて―」に関する話題提供をいただき、我々自身が本学園の未来像を考えるための会を開催いたしました（資料は作成・配布済み）。酒井先生のお話の中で印象に残った点は、立命館の理事会組織の合理性、学園意志決定プロセスの合理性かつ迅速性にありましたが、さらに強く印象に残った点は、平成６年３月に理工学部がびわこ・くさつキャンパスへの移転を終えた段階で、４月以降に直ちに文部省に提出する次のプランが既に出来上がっている点にありました。

かつて筆者がメンバーとして参加した、多摩地区に平成８年を目処に開設される東京都のリサーチパークの機能を検討するために設置された「多摩産業拠点検討委員会」での産業拠点設置の候補地を絞り込む作業の段階で、本学八王子キャンパスがその資料中に挙げられていることを、当時の常務理事のお一人にお話をいたしましたが、理事会としてのこれに対するリアクションについては、私には全く伝わってまいらず、非常に残念な思いをいたしたことが思い出されます。

平成11年度で終了する臨時定員増による定員増分240名をどのように確保するかについては、あまり公式的な議論がなされていないように思われます。前述の未来像委員会の議論の中で、校舎面積、校地面積、教職員数ならびに学生数などを他大学と比較する場面がありましたが、大雑把にいえば、本学のスタッフ（教職員数）は慶応大学理工学部と同等であり、前述の立命館大学理工学部に比較すると教員数が70％程度多くなっていることが見えてまいりました。したがって、これらスタッフのより一層の活性化、特に、卒業研究ならびに大学院の研究指導に当たれるスタッフの充実を図ることにつながるアクションプランの早急なる策定が必要と痛感しております。また、これらを議論をまとめるための全学的な組織の設置については、４月から学長に就任された大橋秀雄先生に期待するところ大であります。

私学である工学院大学の特徴づけ関しては、現在着々と進行中の新宿キャンパスにおける情報分野の充実と共に、研究所構想と連動した八王子キャンパスにおけるエネルギーならびに物質（材料）分野での大幅なレベルアップによるバランスのとれた工学教育ならびに研究開発の場としての本学園のイメージの速やかなる明確化とそれに至るアクションプランの策定と実施を望んで止みません。また、多様な社会のニーズに応えるべく、より広汎な科学技術に基礎を置く教育・研究を展開するためには、工学部から理工学部への改組も検討するに値するものと考えられます。

より具体的には、前述の240名分の定員を１学科で確保することは困難であると考えられますので、少なくとも２学科の増設が必要とされましょう。まず、120名の定員で、物理工学・数理工学に関連する学科を新設するのであれば、現有のスタッフがさらに活躍する場が増えることにもつながるものと判断されます。残りの120名定員の学科については、いくつかの選択肢が存在するものと考えられます。第１案としては、建築のデザイン系をさらに発展させるプランが考えられましょう。また、このような方向性は、文科系的な色彩を本学にさらに持ち込むものとして歓迎されるものと思われます。第２案としては、システム工学科の新設です。その中には、機械システムコースならびに物質（化学）システムコースを含む計画です。第３案としては、前述の総合工学研究所構想に関連させて材料（物質）工学科を新設するプランです。最後に、第４案としては、環境科学を取扱う学科の開設が考えられます。

以上、最後の部分にはかなりおもいつきの要素がありますので、今後これらを含む具体的な計画の検討と策定さらにその後のアクションプランの早急な決定を期待しつつ、筆を置かせていただきます。

（編集部注、筆者は化学工学科教授）

大学の研究所とQuality

MM技術士事務所　間宮　眞佐人（大学化学２回生）

ドイツの地図を見ると中心のやや北にハノーファーと言う国際見本市と美しい大庭園の都市がある。そこからベルリン方面（東）へ約50㎞特急列車ＩＣで30分程行くとブラウンシュヴァイクと言う市に着く。ここの街はずれに知る人ぞ知るブラウンシュヴァイク工科大学がある。この構内にＧＢＦ（Gesell shaft für Biotechnologishe Forschung mobh）と言うユニークな有限会社の形式の研究所がある。ドイツの研究所と言うと多くの人はMax Plank 協会の研究所（自然科学系で52の研究所が国内にある）を想像されよう。この協会の研究所はミュンヘン、シュトウットガルトとゲッティンゲンの３ヶ所しか訪問したことがないが、例えば協会本部のあるゲッティンゲンの生物物理化学研究所は大学（理工学部）の隣にあり、12の研究室で構成されている。研究室は室長である教授と２、３名のスタッフ研究員の他は博士研究員、客員研究員と大学院生であり、日本的見方では大学院大学の感じがする。又研究も実用などは考慮せず全く自由にアカデミックな研究をしており、ノーベル賞受賞者が多く輩出するのも当然と思われる。

この原稿を依頼されドイツの研究所が脳裏に浮んだのは学園100周年記念事業に参画した際大学に研究所を創設する事が決められたが未だ実行されていないからである。工学院大学にMax Plank の様な研究所を作ることは組織上又経営上不適当で、ＧＢＦは非常に参考になる研究所である。工学院大学は理事会も評議員会も教授会も大変民主的で皆の意見を聞き運営するので均一な不平等かつ特徴を出し難い運営組織になっている。研究棟は出来たが研究所は未だ出来ないなどがその好例である。

ＧＢＦの詳しい内容、組織を紹介するには余り専門的になるのでここでは記さぬが、教授はブラウンシュヴァイク工科大学より任期３年で出向して来る。研究スタッフはMax Plank 研究所と同等であるが、共同研究により企業からの派遣研究員が多いのが目立つ。研究所の特質は設備である。バイオそれも実用化を主目的としているので細菌培養タンクが多数（15容量のが10台、150容量のが３台）整備され、その研究室プラントはＰ１レベル（無菌化のレベルで、バイオの実験は通常の実験室では行えない）である。企業でバイオの開発研究には独自でこの設備をもつのは大きな投資を伴い一般に研究者が実用化を提言しても経営者等の承認が得られない。ＧＢＦはこの設備があるので企業からの共同研究が非常に多いのである。

校友会員の多くは大学で機械、化学、電気、建築の工学を学んだ技術者であり、その技術は絶えず進歩、発展、変化していくもので、エンジニアリングが社会の用語にもなっている。又異業種交流の必要が叫ばれ、校友会はそのよい場である。しかし出席者は現役を引退し学生時代のノスタルジャーで参加される方が多い。全国大会も総会も参加者は会員の０．数％であり、その大半は常連の年を召した方々である。校友会は真の技術者集団としての役割を果たしていない。これは理想であろうか。

筆者が国立研究所に在職中、研究室員が仕事に問題が生じた時、よく出身大学や同窓の研究者と相談していた。校友や母校はこのようなものになって欲しい。

平成５年度の大学の研究発表会に出席した。その際専門以外の学科の発表を聞くと幾つかの共通点が感じられた。それは計測測定機器の事である。研究の評価は測定データで行うのが普通である。新しい創造的な研究には汎用の測定機器では測定できず、多くの場合その研究に適した測定方法、機器の開発研究が必要である。その方法が解決すれば研究の大半は終了するとも言われている。

最近測定機器は急速に進歩し極微量の化学成分、その分子構造、試料表面（数分子層）や各化学種の分布状態、表面から数㎜ごとの深さ方向の成分分布など高次な測定機器が市販されている。これらの機器は最高精度の加工、エレクトロニックス処理、極低温（４°Ｋ）、高度なアルゴリズムによるコンピュータ処理、画像表示などが必要であり、数千万円、機器によっては数億円もするものがある。私が聴講した研究発表の幾つかはこれらの機器で測定すれば研究することなく結果が判明するものがあった。その点をコメントすると大学には測定できる機器がない。安い方法で測定できる可能性を研究しているなど学問社会では通用しない理由が述べられた。

恐らく多くの校友の企業、職場でも事象、物質を測定する時高価な機器とそれを取扱えるオペレーター、データを解析する分析者が居らず、研究、開発の障害になっていると思われる。㈱東レリサーチセンターはこのサーヴィスで営利業務を行っている。

我が大学でもこの必要性は認識しており共通研究設備物性研究室があるが現在の研究レベルから見ると貧弱である。創設する研究所には１つでも２つでも高度な機器（例えばＮＭＲ、顕微鏡、ＳＴＥＭ、ＬＥＥＬＳなど）を設置し、それを校友にも開放して頂きたい。その装置と測定データを核に高度な技術交流、協力研究が生れ、育ち成長すると確信している。この様な高度な設備と技術を大学で持てば学内の研究は基より他の大学、研究機関とも相互交流が可能となり、本学の質的向上に役立つことは言う迄もない。これからはQuality の時代である。ＯＢの一提言としてこの拙文を記した。

始動し始めた〝エステック情報協会〟

会　長　丹羽　宏之

昨年１月10日に発足した当協会は、１年を経て、漸く事業活動も本格化して来た。

去る１月21日には、本学園で始めてのＳＴＥＣテクノ・シンポジウムが、日刊工業新聞社と共催で大学１階のアトリウムを利用して盛大に開催された。

当協会のメンバー企業の非破壊検査㈱、光進電機㈱、オーツケミカル㈱を始め21社の優良企業が一堂に介し、企業と学生と教授が一体となって企業の技術動向を研究するという新たな形の産学交流の場を提供することができた。

学園施設を取り巻く地理的条件でも最高の環境を占有するエステック街区が、高度技術情報の発信基地として、本来の機能を発揮するためには、教育は勿論、科学技術に関する新しい事業を企画立案し、これを積極的に推進実行することこそ重要であって、当協会は、この趣旨に添って短期間にこのオリジナルでユニークなイベントを計画し、初の試みとして実行に移すことができたものである。

イベント開催後の企業と教授との懇親会において、北郷理事長は、このような当協会の事業に深い理解と、暖かい支持を表明され、学生や教授が共に実社会の技術傾向、実態などの現状を学園施設内で直接勉学する機会が得られるので、教育上もきわめて有意義であり、今後ともこのような催しを継続して新しい産学交流の場を作りたい旨、ご挨拶されたのが印象的であり、当協会として、今後ともこの種イベントの開催に大いに意を強くしたものである。

また、この３月には、本学電気系学科出身博士号取得者の会として知られる博新会５周年記念総会に、当協会も協賛の形で参加させて戴き、会員企業と学者と教授との間をパイプでジョイントする機会が得られたことは洵に幸運であり、今後はこれを核にさらに、他学科へも賛同を求めて環を広げ、全学的な本学園独自の高度な知的集団を創設し、実社会、学園で活躍する先輩や教授による優れた先端技術、高度な革新技術の学術的研究の啓蒙、発展を促進できるシステムを構築すると同時にその貴重な成果を通じて企業が必要とする生産、応用技術の開発に助言と協力を促し、教育界、産業界にあって広く社会に貢献できる高付加価値でユニークな本学園特有の産学ビジネスゾーンの実現を目指したいと念じている。

ところで、現在、当協会は、設立当時より１社増え16社の会員で構成されている。

会員資格は、学園出身者または校友会賛助会員が経営に参加していることが必要かつ十分条件であって、数は少ないが総ての会員は、等しく将来の発展を期待してエステック情報街区の目指す高度情報社会に燦然と輝く協会を夢みて会員相互の緊密な連携を保ちながら頑張っております。

毎月少なくとも１回の理事会を兼ねた定例会を開催し、会員相互のホットな情報の交換、新しい協会独自の共同事業の開発と研究、他団体との交流、研修など、情報と

全国大会
〈兵庫県大会〉開催にあたり

兵庫県支部長　岡本　聖治（耕一）
（建築31年卒）

か技術とか名が付く魅力あるソフトウェアを取り上げ活発な議論を戦わせて、21世紀にむけて新規事業の模索と実行を図っている。

幸いにも、設立当初、経営情報学会および基礎借体工学研究会の２学会だけの継続的な事務代行業務も新たに、他の学会の事務局代行業務や各種行事の委託代行業務も実行でき、今後とも学会関係の事業が増えると予測されるので将来的な事業収益の見通しも見えて来たこともあって、これからの運営に大きな自信と期待がもてる状況にある。

したがって、第２年目に入った当協会は、１年目の実績を下に、さらに英知を出してこの厳しい産業不況の中にあって新しい技術と情報をベースにしたニュービジネスを発掘して新たな飛躍で邁進し、併せて学園の発展のために最善を尽くしたいと念じている。

どうぞ今後とも宜しくご協力の程お願い申し上げます。

なお、当協会は、隣のエステック情報ビル22Ｆに事務局を設けて業務を行っていますので、校友の皆様のご来訪を歓迎致します。そして、当協会の事業活動に興味をもち、入会を希望される方は、是非とも下記宛ご連絡賜われば幸甚です。

事務局　エステック情報ビル　22Ｆ
電　話　03－5322－3601
ＦＡＸ　03－5322－3602

先ず全国校友の皆様の御健勝を、心よりお慶び申し上げます。

一昨年、広島県大会において、次期開催地兵庫県と、正式にお受けすることになりました。過去何度か全国大会に出席させていただきまたそして、一昨年の広島県大会と、その都度開催支部の皆様方の御努力、御苦労に感謝の念を覚えておりました。それが今我々支部に、現実のものとなり、支部結成から15年と日も浅く、また若い校友の集まりである我々支部に出来るであろうか、支部会員に色々な面での負担を強いる事になるであろう、繰り返す自問でありましたが「支部長の考え一つ」「やろうと思うならやりましょうよ」支部役員の心強い答えに、開催を決断致しました。準備委員会を設置、検討を重ねて参りました。開催要項につきましては別紙の通りでございます。

全国大会の持つ意味、広く親睦を深め、旧交を暖めると同時に、その地の景勝を楽しむことも各地で開催する意義であろうと思います。幸い今神戸では、世界最長の明石海峡大橋の建設中でもあります。10月には主ロープも張り始める頃と聞いております。ポートピア81以来燃え続けております神戸の街並を、そして紅葉する六甲連山を眺め乍らの船上パーティを楽しんで頂ければと思います。景気回復もままならない現時勢でありますが、開催するからには少しでも一人でも多くの校友の皆様方の参加を頂きたく、本部事業部また広島県支部上船副支部長、大阪支部、京滋支部の皆様方の御指導を頂きながら準備を進めております。どうぞ10月29日、30日神戸にお越し下さいませ。

御協力の程よろしくお願いいたします。

カヌーを通して

高橋　秀樹（大学院建築学科１年）

工学院大学建築学科に入学し、本来なら建築を充分に学んで卒業しなければならないのですが、自分は学問以外に熱中して４年間を終えた様に思います。この４年間の自分を魅了したもの、それは“カヌースラローム”でした。激流に設置されたゲートを通過し、タイムを競うものである。

最近テレビのＣＭなどでカヌーを見る機会もあるが、あまり御存知ない方も多いかと思われるので少々カヌーについて説明させて頂く。カヌーは湖や川で自由自在に動き回ることができる舟で、パドルでコントロールする。流れの激しい川で利用されるカヌーの特徴として、外部からの水の侵入を防ぐため、人が乗り込む部分以外はすべて閉鎖された形状である。舟体の中にすっぽりと下半身を収め、カバーをすることでカヌー内に水は入らなくなる。そしてパドルで左右漕ぐことで推進力を得る。次に自分が専門とするスラローム競技とは、どの様なものなのか説明させて頂く。スキーのスラローム競技と比較すると分かりやすい。スキーをカヌーに乗り変え、ゲレンデを川に変えて同じ様に競い合う。ただ、少々違う箇所がある。ゲートは川の上部に張られたワイヤーから、1.3ｍほどの間隔の棒を２本、上から釣り下げられる。その間を接触せずに通過しなければならない。ゲートに身体が接触した場合、所要時間に５秒加算される。もし不通過した場合50秒加算される。この様なゲートが500ｍほどの区間に25ゲート設置される。そしてゲートには、緑のゲートと赤のゲートの２種類があり、緑のゲートは上流から下流へ、赤のゲートは下流から上流へ通過しなければならない。以上のことを守り、25ゲートを通過するための所要時間と先に述べたペナルティーを加算し、成績となる。速く、指示通りに漕ぐ上にゲートに接触すると、ペナルティーがあるため、体力、テクニック、記憶力、判断力など持っている力をすべて出し切らないと、決して良い結果は望めない難しい競技である。日本での知名度は低いものの、海外ではワールドカップなどが開催され、多くの観客を集める人気の高いスポーツです。

自分は大学入学と同時に、このスラローム競技を始めましたが、それ以前に、カヌーに乗った事はありませんでした。初めてカヌーを知ったのは、小学校の高学年の頃まで遡ります。当時テレビで紹介されていたスラローム競技を見たのが、自分とカヌーの最初のきっかけでした。練習場所など詳しい事がわからないまま、カヌーを始めることができずに終わりました。カヌーに乗りたい気持ちを抱きながら、平凡な学校生活を送っていた事を覚えています。

大学入学当時、自分は１つの強い目標を持っていました。「これだけは、誰にも負けない」ものを自分に身につけることでした。この思いと、昔からのあこがれていたカヌーは、強い決意と共に活動が開始されたのです。今思えば、かなりの思い入れがあり、頭の中にはスラロームで勝てる様になる夢しかなかったくらいです。しかし理想と現実の差はあまりにも激しかったのです。カヌーを始めた当時、川でカヌーが転覆すること20回。前に直進することすらできないのです。大きな希望は、気が付くと絶望に変わっていました。楽しそうな周囲の友達と裏腹に、毎日暗い日々が続くのでした。この絶望を希望に変えるため、大学１年生の11月に無謀な挑戦を始めたのです。国内トップの選手と一緒に週５日の練習をすることでした。大学の勉強も忙しくなる中で、練習を続けるのは自分の限界を越えるものでした。

練習中心の生活を続けても、しばらくの間は当然良い成績も出ず、大学２年生になり焦りの色が強くなってきた。大学入学時の目標が良い結果として表われたのは、大学２年生の10月での試合のことでした。100名ほど出場、結果は５位、そして新人賞を獲得。この時、初めて多勢の前で表彰され、明るい光がさして来たのはこの頃からでした。これで気を良くした自分は、前にも増して練習に励むのでした。しかし、大学の試験のたびに、留年という２文字は常に自分を脅やかしていたのは言うまでもありません。

大学３年生の５月、今まで以上の大舞台にたつことになるのです。この年のＮＨＫ杯は、オリンピックの選考会を兼ねているので、予選上位12名に入れば、ＮＨＫ杯に出場できるのです。予選通過も不安なまま出場したのですが、終ってみればＮＨＫ杯４位、テレビにも放映され、続けて来た練習の成果が表れ始めました。この年は、国体４位、国際大会国内選手中５位など、納得のいく結果に恵まれた年でした。大学に入ってから、急に過酷な練習が続いたため、大学３年生の冬から腰痛に悩まされ、練習から離れざるを得なくなったのです。無理を通しすぎた罰なのか、今もこの腰痛は治らず、腰をかばって練習をしています。

自分の大学生生活は、カヌーに始まり、カヌーに終わった訳ですが、カヌーで成績が出た以上に、様々な人々に会う機会が増えた事が、何よりも今の自分を支えてくれている事を実感します。これからもカヌーを通して、自分を磨き続けたいと思います。皆様の御支援をお願い致します。

故ハナ肇さんと東京支部

ハナ肇さんの工学院での中学時代は戦時下であったと同時に小学校時代からのガキ大将の素質が開花されつつあったのか、まともに学校へは行かず勤労動員と喧嘩に明け暮れていた。喧嘩の相手はもっぱら国士館であったが、その言動が時には町のチンピラに目をつけられ袋だたきにされた事もある。その時は相手が20人こちらは１人、とてもかなわないと開き直りチンピラに好きに殴らせたそうです。かえってそれが良く以降は工学院の制服を着ている学生には「野々山にヨロシク言っとけ」と言うだけで一切手を出さなくなったと聞いている。ガキ大将であり、不良学生でもあったのでした。ドラマ志望のハナさんと歌手志望の植木等が初めて出合ったのはハナさん16歳植木等が19歳の時、お互いに「やけにでかい声で笑う奴だ」「色が黒くて丈夫そうな男」と云う印象であった。その３年後に市村俊幸さんに本名の野々山定夫からハナ肇の芸名を名付けて貰い、以降その名前と共にドラマーとしてクレージーキャッツのリーダーとして芸能界に君臨して来たのでした。昭和30年からクレージーキャッツのリーダーとして「おとなの漫画」「シャボン玉ホリデー」など高度成長期のテレビ番組で爆発的な人気を博し、44年には「ゲバゲバ90分」で「アッと驚くタメゴロー」の流行語を生みだした。工学院出身では唯一の実のある芸能人でした。このような素晴らしい経歴をもつ、日本中をわかせたハナ肇さんと校友会で一緒に仕事が出来るとは夢にも思いませんでした。ハナ肇さんと初めて出合ったのは平成４年１月12日、第1回目の東京支部設立準備委員会でした。最初の印象はやはりテレビ、映画でお馴染みの首が太く、ギョロ目、大きな声、ガッチリした身体

のハナ肇さんでした。委員会でも始めは回りの話をただ聞いているだけでしたが、発言を求められてからはハナさんの独壇場、先ず呼び方にクレームをつけ野々山でなくハナと呼んでくれ、又自分が話をするときは最低50万はかかるんだよ、今日はタダだが、皆もっと元気をだせ、笑顔になれ、しかめっつらをするな、もっと楽しい会にしよう、あまり堅苦しい会なら俺はすぐやめさせて貰うよ、とそれから30分話し通し、私達はハナさんの迫力ある内容の話術にたちまち魅了された。聞く所によるとハナさんは渡辺美智雄議員に話し方を指導し、逆に先生と呼ばれているそうです。少し寄り道をします。ハナさんの家は世田谷の駒沢オリンピック公園の近くにあり、ザ・ピーナッツの家と隣同士になっています。門を入るときれいなさまざまの花が咲きほこり、その中に「ハナ肇」の木札がポツンと吊り下がっています。この花は宝塚出身の奥さんの「夢」を大事にする気持ちの表われで、年中季節の花がたえる事なく咲き、家の回りをとりかこんでいます。玄関を入ると左側にはハナさんの舞台用、外出用の帽子、衣装等が所せましと13帖ほどの広さの部屋に立て掛けられています。廊下の先の階段を下り、左側を見ると「ハ

ナの湯」と書かれたノレンが下がっています。中に入るとこれが芸能人の誰でもが知っている檜造りで１日中お湯が湧いていると云うお風呂、多くの芸能人がこの湯を浴び、あがるとハナさんのユカタが貰えると云う有名なお風呂です。私達も記念にそのユカタを頂いてきました。この浴室の前が35帖と大きなハナさんの憩の場であり、仕事場、客間でもある部屋です。入ってすぐにホームバーがあり、私達もお邪魔するたびにそこから出された冷たいビールをごちそうになっておりました。そのさいハナさんも一緒に飲むのですがその飲み方はとてもうまそうに飲む人でした。焼酎も好きでした。ハナさんの知人の所で忘年会をした時もお湯と焼酎を手元に置き自分で作りながら楽しそうに話をしながら飲んでいたのを思い出します。その部屋にはテレビ用の電動式スクリーン、ハナさん自慢の500万のドラム、１個400万のスピーカーが４個、それ以外に1000万はすると云う棚いっぱいのＡＤ機器類、さらに照明とまるでスタジオに来たかの様でした。そのＡＤ機器から発するすさまじい音と、ハナさんのたたくドラムを聞き、あらためてこのすばらしい才能をもつハナさんをうらやましくも思い、又頼もしくも思ったものです。明るく、元気で、行動的な、人情味あふれるハナさん、ほんの僅かの短いつき合いでしたが大きな印象を残して私達の前から消えてしまったハナさん。

私達は今、ハナさんが生前よく語っていた明るく楽しい会にしようと云う言葉をかみしめ、そのための一つとして昨年より始めている、同じ趣味を持つ者同志の集まり、「サークル活動」をさらに広げ、会員の方々がこれに少しでも関心をもち参加頂ける様、又末長く継続させたいと色々工夫をこらし模索している所であります。今日迄のサークル活動についてご紹介申し上げます。囲碁将棋、俳句絵画のそれぞれの会は昨年11月新宿校舎の28階で初心者からプロ並みの方々が出席されて開かれ囲碁では青野毅（機械）さんが第１回目の優勝者となっています。写真の会はやはり12月に第1回目が開かれそこで２ヶ月ごとの集会が決まり、今年の2月に東京調布の深大寺植物園で撮影会が行なわれました。次回は４月に女性モデルの撮影会が行なわれる予定です。海づり川づりの会は11月に企画しましたが海の状態で中止になり今春実施する事になっています。各種見学会に於いては今年の１月に八王子の中島酒造場を見学し、おいしい新酒を試食させて頂いてきました。そしてゴルフの会では11月に第１回目のコンペが相模湖Ｃ．Ｃ．で開かれ世田谷の鈴木さんが優勝し３月24日、八王子Ｃ．Ｃ．で行う５組の第2回コンペの幹事としてその準備に張り切っております。この様に各サークルがそれぞれの担当者の熱意と努力により少しずつその参加も増え、幅広い交流、ふれあいの場が広がりつつあります。サークルの中で覚えたいと云う初心者の方、又東京支部にまだ入会されていなくとも、東京に在住の方いつでも、どこでも皆さんのご参加をお待ちしております。下記に連絡の上参加頂き共にふれあい交流を広げようではありませんか。

電話　03－3342－2064　　吉岡迄

東京支部支部長代行　坂田佳昭　（38電卒）

学園本部

平成５年度の学園関係者の叙勲叙位の方々は次のとおりです。

勲二等瑞宝章
　沢田　光英　評議員
従五位　勲四等旭日小綬章
　故大庭　常良　名誉教授
紫綬褒章
　堀　　幸夫　大学客員教授

『工学院大学学園百年史』が昨年12月、ついに刊行された。

百周年記念事業の一つとして昭和58年から準備がはじめられ、10年余の労苦の末、ようやく刊行にこぎつけた。日本の歴史も含めた千ページを超す大冊。重厚な装丁であるが、写真が多く字も大きくてとても読みやすく仕上がっている。巻末には学園広報紙「窓」に連載し、好評だった「学園人物史」もまとめて収録。

ご希望により3,200円（発送費込み）のご負担でお分けします。郵便小為替を同封して下記へお申し込みください。なお、卒業年度、学科等をお書き添えいただければ幸甚です。

申込先　〒163－91
東京都新宿区西新宿1－24－2
学校法人工学院大学企画部調査企画課

大　学

●入学試験結果について

平成６（1994）年度入試は、第１部前期入試〔２月６日～９日〕、第１部後期入試〔２月28日〕、第２部入試〔３月１日〕の６日間にわたって行われました。志願者数を昨年度と比較すると、第１部前期入試22.4％（2,769名）減、第１部後期入試9.0％（118名）減、第２部入試18.5％（257名）減といずれも大幅な減少となりました。志願者が激減した主な理由としては、①経済不況が一般生活をも直撃し、学費の安い国公立大に人気が高まったこと、②受験生が併願校の絞り込みに入ったこと、③依然、理工系離れが進んでいることなどが挙げられます。

しかし、明るい材料として、本年度始めて実施しましたサテライト（大阪）入試で76名の志願者があり、その内、26名の合格者が出たことです。試験会場は大阪１ヶ所でありながら、志願者は東は茨城県から西は福岡県までの出身者がおり、サテライト入試が有意義であったことを裏付けました。

●新たな入試制度に向けて

本学のこれまでの志願者は、浪人生が多くまた首都圏中心でした。今後、全国型の大学に飛躍していくために、次年度において、①今年度実施したサテライト入試会場を大阪の他に、全国数ヶ所で実施する、②大学入試センター試験に参加する、③本学主催の高校理科・科学クラブ研究論文募集で優れた研究に携わった生徒を受け入れる推薦入学制度を実施する、④文科系大学との連携を強化して、それぞれの大学の附属高校生を積極的に受け入れるなど新たな入試制度を導入いたします。

18歳人口の減少＝「大学の冬の時代」と言われる中で、全国から優秀な学生を集め、さらに社会人に開かれた大学として、今後も入試改革を推進していきます。

1994年度 第１部《前期・サテライト》入学試験結果

種別	学科・コース	募集人員	志願者数	前年比増減数	受験者数	合格者数	実質競争率
第1部前期	機械系学科	210	2,259	▼610	2,151	644	3.3
	応用化学科	105	873	▼157	842	366	2.3
	化学工学科	70	537	▼234	509	18	2.3
	電気工学科	105	1,065	▼283	1,028	376	2.7
	電子工学コース	140	817	▼335	793	272	2.9
	情報工学コース		1,081	▼678	1,009	253	4.0
	建築学コース	185	1,915	▼122	1,796	362	5.0
	都市建築デザインコース		1,021	▼350	997	198	5.0
合計		815	9,568	▼2,769	9,125	2,689	3.4

専門学校

専門学校では、この４月から一般社会人および工学院大学専門学校卒業生を対象として、下記の通りＣＡＤ講習会を開講しました。

これからですと「建築コース」の受講が可能ですので、ご希望の方は専門学校事務室までお問い合わせ下さい。

工学院大学専門学校
163　新宿区西新宿 1－24－2
TEL　03－3340－0141（直通）

平成６年度　工学院大学専門学校
ＣＡＤ講習会（入門講座）募集要項

	機械コース	建築コース
講習内容	ＣＡＤＰＡＣ　stationⅡＥＸ ＣＡＤの基本操作（たち上げ、終了、基本コマンド）から図面作成まで、初めてＣＡＤに触れる人を対象に実施	ＤＲＡＣＡＤ ＣＡＤの基本操作（たち上げ、終了、基本コマンド）から図面作成まで、初めてＣＡＤに触れる人を対象に実施
講習日時	下記金曜日14回　各日とも午後６時～午後９時 4月　22　7月　1　8　15 5月　6　13　20　27　9月　6　16 6月　3　10　17　24	下記金曜日14回　各日とも午後６時～午後９時 10月　14　21　28　1月　13　20　27 11月　4　11　18　25　2月　17 12月　2　9　16
募集人員	60名	60名
応募資格	一般社会人および工学院大学専門学校卒業生	一般社会人および工学院大学専門学校卒業生
受講料	一般社会人　100,000円 工学院大学専門学校卒業生　50,000円	一般社会人　100,000円 工学院大学専門学校卒業生　50,000円
応募方法	所定の申し込み用紙、返信用封筒を本校事務室へ郵送する。定員になり次第申し込み受付を締め切る	所定の申し込み用紙、返信用封筒を本校事務室へ郵送する。定員になり次第申し込み受付を締め切る
応募締切	平成６年３月19日（土）	平成６年９月22日（木）

高等学校

「新図書館」の完成

待望の図書館が完成しました。平成５年12月に竣工を迎え、翌年２月上旬に引越作業を終了し、いよいよ平成６年４月の新学期より開館する事になりました。

高校図書館としては数少ない独立棟で、旧建築実習室を増改築した建物としては最大限、設計の工夫が施されています。本館の特徴は大型ガラスをふんだんに使用し、明るく快適な学習空間を心がけ、又、利用目的に応じ独立した各コーナーを設けております。

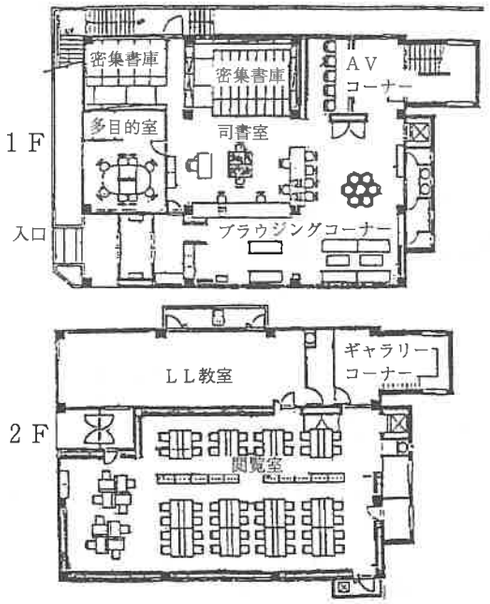
新図書館が文化の香り高い施設として、又親しみやすく、夢大きい空間になるよう、皆で育てて行きたいものです。　（文責・上村）

〔図書館概要〕

○収納冊数
　開架書架　１階・２階　約10,000冊
　閉架書架　１階　約33,000冊
　合計43,000冊

○座席数
　閲覧室　56席
　ブラウジングコーナー　25席
　ＡＶコーナー　５席
　教員研究室　２席
　合計88席

新図書館案内図



硬式野球部（部長　宮澤義勝・監督　高橋憲治）

毎年好成績を収めているクラブで、平成５年夏季の大会ではノーシードから勝ち抜いて、国士館高校に敗れベスト８の成績を残しました。秋季大会では２回戦で強豪日大三高と遭遇し善戦したものの惜しくも延長サヨナラで敗れました。平成６年夏季大会では甲子園出場をめざして勝ち進むことと期待されています。

平成３年　準決勝　　対国学院久我山　　ベスト４
平成４年　準決勝　　対創価高校　　ベスト４

サッカー部（顧問　佐藤　勝）

総勢40名程の部員で「試合のための練習」をモットーに、狭いグランドの中で多彩な工夫をこらした練習をして徐々に力を付けてきています。

平成５年度の成績、西支部大会　３位、拓大杯　３位、インターハイ支部予選　優勝、同インターハイ都大会出場、選手権支部予選　準優勝、新人戦支部予選　優勝、関東大会都大会出場

放送部（顧問　渡部　知弥）

平成５年度N･H K杯の放送コンテストに『交通安全への願い～現代の円空を追って』を出品し、全国大会で第３位を収めました。この番組は１年間かけて取材をして制作したもので、新聞に大きく取り上げられ、警視庁からはテープのダビングを依頼されるほど反響は大きいものでした。また東京都文化祭大会でも優勝しました。東洋大学主催の『高校生ＣＭコンテスト』で佳作に入選した作品はＮＨＫのニュース７で放送されるなど、話題に富んだ作品を次々と制作しており、今後ますます活躍すると思います。

生徒会（顧問　島田浩行・福田英徳・高橋憲治）

平成５年度の生徒会活動は、ボランティア活動と環境問題に取り組む、の二つを活動の柱として行なってまいりました。ボランティア活動は学外で体験したこの経験が生徒会活動や学校行事に十分に生かされたと思います。行事などを盛大に行なう為にはかなりボランティア精神が必要です。

今年度の本部役員はほぼ全部が学外で行われているボランティア活動に参加しました。このような努力が缶のリサイクル運動なども苦にせずに行なえるようになった証です。またクラブ活動を盛り上げる為に今年度は、野球部の夏の大会の応援も生徒会で一般生徒に呼びかけ行ないました。これにより他校に敗けないぐらいの応援ができるようになったことも喜ばしいことです。

文化セミナー

平成５年10月15日（金）八王子市民会館において、「第３回文化セミナー特別講演会」が開催されました。今年は大成建設㈱技術研究所主席研究員・藤井正伸氏を講演者としてお招きし、「燃えない建物をもとめて」の演題で講演していただきました。

進路状況

３月２日現在の進学者は、工学院大学Ｉ部185名、Ⅱ部71名、その他の大学、都立大、日本大、立命館大、東京理科大、産能大、創価大、和光大、上武大、明星大、清和大、カナダ国際大、ネバタ州立大、工学院大学専門学校に13名、他専門学校に52名、就職に12名（自営含む）未定71名であった。

入学応募状況

平成６年度の入学応募状況は推薦入学定員男子200名に対し170名、一般入学定員男子200名に対して、809名があった。

●部会報告

総務部

工学院大学校友会では、平成５年１月より学園に対し、校友会室の問題について再開発以前の状態に回復して戴きたい旨お願いしてまいりました所、平成５年４月北郷理事長より、現在地への移転のお許しを戴きました。

この為、常任理事会において検討し、『一般会員の皆さんにくつろいで戴ける校友会室を』をテーマに内装工事を行い、平成５年９月３日に移転致しました。谷口理事および吉岡事務局長のご努力に感謝申し上げます。

平成５年度事業計画　予算案について

平成５年度会議開催状況

理事会（４回）

4 / 13　平成４年度事業報告　決算報告について
9 / 28　校友会室移転について
　　校友会室移転披露式
12/ 17　特別職規定制定について
3 / 25　平成６年度事業計画　予算案について

総会および評議員会

5 / 30　平成４年度事業報告　決算報告について

常任理事会（６回）　監査会　（１回）
総務部会　（６回）　財務部会（２回）
広報部会　（１回）　企画部会（１回）
事業部会　（３回）　組織部会（５回）

校友会では、全国大会（神戸大会）支援の為事業部が中心になり、計画を推進しています。会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。　（総務部長　酒井史生）

財務部

校友会会員諸氏におかれまして、ご健勝のこととお喜び申し上げます。校友会協力会費のご協力を通し、校友会へのご支援、厚くお礼申し上げます。懸案事項であった会費改定も前財務部委員を始め多くの人々のご努力により、達成され、今後10年の収入み通しも可能となりましたので、今後10年の収支の財政計画を検討しました。５年、10年後の校友会のビジョンが作成されれば、その実行、また100周年行事はビジョンの一部を達成する好機であり、これらに対する財政計画が急務と考えています。ごぞんじのように校友会の財源は在学中に納入する会費、基金の利息と会員諸氏の協力会費によって賄われています。なんとかこの10年間に財産の構築を５億円とし、会費＋利息＋協力会費の３本柱に裏付けされた、アクティブな活動が出来る体制を目指しております。

会員諸氏の協力会費のいままでに増すご支援を切に、お願い申し上げます。

今年度の財務部会は１．校友会室移転整備及び会員談話室（仮称）新設整備について、２．1994（Ｈ６）年度予算案について、３．体育会連合ＯＢ会援助願いについて審議致しました。　（財務部長　関口　勇）

事業部

校友の皆さん、益々御健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。

１．第11回全国大会を平成６年10月29、30日、兵庫県神戸市に於いて開催されます。開催要項も決定し、兵庫県岡本支部長を中心に着々と準備も軌道に乗って居ります。今回の大会は港神戸の特色を生かし、友情と親睦の輪が更に広がる様な構想で計画立案されて居ります。

　此の神戸大会を盛り上げ成功させる為にも、校友各位の御理解と御協力を切に御願致します。

２．平成６年１月22日、新年賀詞懇親会を新宿校舎28階会議室に於いて、北郷理事長始め学内の先生方、校友120余名の出席の基新たな気持ちで学園の発展と校友会の充実を確認する楽しい一刻を過しました。

　平成７年の新年会を、１月22日（土）新宿校舎で午後２時～４時、計画して居ります。

３．校友会「カード」発行に対するご案内及びお願い。

機会が有る度に、校友の皆様にご協力をお願いして約２年に成ろうとしています。此の「カード」は一般のクレジットの機能に校友会独自の特典を付加した価値ある「カード」です。「カード」会社との提携手数料

の収益が上れば校友会の財源の一部として活用も出来ます。是非「カード」の入会をご検討下さい。資料は事務局にあります。お気軽に相談下さい。

（事業部長　石成和男）

企画部

平成11年は工学院大学校友会が明治32年に創設されて以来100年になります。それを記念して校友会としても様々な事業を企画立案し、又組織を充実してゆきたいと思います。以下企画部内で討議している内容を報告致します。

〔1〕校友会創立100周年記念事業について

1．創立100年史編集について

2．全国支部のブロック化発足準備について

3．本学園環境整備について

4．校友会支部活動表彰について

〔2〕その他活動

1．工学院大学校友会パンフレット作成

2．校友会々員管理者異業種交流会開催

3．校友会カード加入キャンペーン

4．ファカルティークラブ利用のキャンペーン

以上について、各部と協力し検討してゆきたいと思います。各位皆様のご意見がありましたならば企画部宛にご一報下さい。特に100年史の編纂については、工学院大学学園の発展と校友会の関係を中心に作業を進めたいと思いますので、各会員の方々の中で、古い資料をお持ちの方は是非お知らせ願いたいと思います。又、校友会についての古い想い出話などあったら、文書にて或いは録音テープでご送付下さる様お願い申し上げます。テープの場合は文章に直して参考資料とさせて頂きます。

平成５年度支部総会開催報告

平成５年度の支部総会は58支部中35支部が支部総会を開催して頂きました。ここ10数年では最高の開催数ではなかろうかと思っております。

これも各支部長さんはじめ多くの支部役員の皆様のご尽力に依るものと感謝致しております。今後支部総会の集いを異業種交流の場としてご活用して頂くためにも、一人でも多くの校友の参加を望む次第です。

開催支部は下記の通りです。

４月11日（日）	山口県支部
４月23日（金）	富山県支部
４月25日（日）	広島県支部
５月14日（土）	中野支部
５月15日（土）	大阪支部
５月28日（金）	宮城県支部
６月13日（日）	埼玉県西支部
６月18日（金）	山梨県支部
６月19日（土）	新宿支部
６月26日（土）	高知県支部
６月27日（日）	山形県支部　熊本県支部
７月１日（水）	東芝支部
７月３日（日）	静岡県支部　川崎支部　横浜支部　相模支部　湘南支部　西湘支部
７月17日（土）	千葉県支部
７月18日（日）	栃木県支部
８月16日（日）	日本電気支部
９月11日（土）	北海道支部
９月18日（土）	兵庫県支部
９月19日（日）	東京支部
９月25日（土）	八南支部
10月16日（土）	鳥取県支部
10月23日（土）	青森県支部
10月31日（日）	新潟県支部
11月13日（土）	福岡県支部
11月19日（金）	沖縄県支部　台湾校友会
11月20日（土）	長野県支部
12月４日（土）	京滋支部
12月22日（土）	長崎県支部

支部長会（平成５年９月18日）

皆さんの支部では今……？

高知県支部長
三輪　伸太郎

校友会報が送られてくると、私は最初に支部だよりに目を通す。各支部が何を考え、どんな活動をしているのか興味を引かれるからである。

私が属する高知県支部は、昭和47年に本部の強い働き掛けで設立された。当初は支部会員が50名ほどであったが、Ｕターンする校友が僅かずつ増え現在は70名を越えた。元来、高知県から工学院大学へ進学する者は非常に少なく、平成５年11月現在、工学院大学の学生総数6200名の内、県内出身の在学生はたったの14名である。また、高知県には名の通った有力企業が無いので県外からの流入は考えられず支部会員の増加は限られたものとなる。

現在、高知県支部には副支部長を４名置き、おおむね出身科別に会員の動向を掴まえたり支部総会への出席を働き掛けるなどの仕事を分担して貰っている。

毎年４月には、本部から提供を受けた名簿から転入出の情報をキャッチし、これを整理してフィードバックすると共に支部の全会員に新名簿を送付する。これは会員の移動が少ない支部だから出来る作業で、千名を越す会員を擁する支部では到底不可能な事だと思う、大きな支部を取りまとめている皆さんが会員の把握に如何に苦労しているか想像できる。

高知県支部の会費は、送料加入者負担の郵便振込み用紙を送り送金をお願いしている。平成５年度は会員の約半数が納入してくれた。会費を納めることは自分が支部会員であると認識しているあらわれであり、この数を一名でも増やすことが支部運営の要となる。

支部総会は平成５年６月に第９回目を高知市で開いた。毎年同じ時期に開催するようになって３年目である。それ以前は、総会の間隔が３年、５年と開いて行き挙げ句の果てに「次は７年後に開くことにする」などと支部長（私）が熱の無い放言をする始末。一方、本部に対しては「来年こそ支部会を開き度いと思います」などと良い子振っていたのだが……。組織部長の恒松良一氏に「思っているだけの者に実行の試し無し」とたしなめられて、それ以来総会を毎年開催する本部の覚えめでたい優良支部？に変身した。

以前は総会を開いても出席者は会員の10％強、会費を納入する人は総会の出席者のみという状況が続き、正直なところ支部は休業中と批判されても仕方が無い状態だった。現在は「今度の総会には出席出来ないが来年は必ず出る」という人を含めると潜在的な出席要員が３割を越え明るい状況に向っている。校友会報114号の中で青森県支部長の外川氏が「継続することは支部活性化の力になる」と述べているが、この法則は高知県支部にも当てはまる。しかし私は、支部の活性化とは何か、アクティブな支部活動とは一体何なのか明確に捉えていない。全国大会の開催を引き受けたり、支部年史を発行するなどのスケールの大きい活動は高知県支部では出来る術もない。我々のような弱小支部ができる支部活動とは何なのか、そのヒントを校友諸兄に教示して貰えれば幸いである。

最後にお座敷のご案内をひとつ。高知県支部総会は、毎年６月最終土曜日、高知市唐人町の料亭魚竹本店（0888－22－3131）で18時～20時30分に開いている。第10回は平成６年６月25日（土）、第11回は平成７年６月24日（土）と日時・場所を固定しています。この時期に高知においでの校友は是非お立寄り下さい。特に、四国内の支部からの参加を歓迎いたします。

（機械工学科13回昭和39年卒）

平成６年度支部総会開催予定

平成５年度に支部総会を開催する支部を第114号の会報に32支部をご案内致しましたところご案内以外の支部も総会を開催し合計35支部となりました。ご参加頂きました皆さんにお礼申し上げます。平成６年度支部総会開催予定をご案内致しますが、異業種交流の場としてご活用頂くためにも是非ご都合をつけてご参加頂きますようにお願い致します。会報発行時に総会が終了している支部もございますが、何分先のところもございますのでお住まいの各支部にご連絡して、日時、場所をご確認頂きますようにお願い致します。

山口県支部（連絡先　溝上支部長　0834－21－8421）
　４月17日（日）ＰＭ3：00　下関大丸７Ｆレストラン「伊喜伊喜」
千葉県支部（連絡先　佐藤支部長　0474－48－4811）
　５月22日（日）ＡＭ11：00　千葉市内に於いて
埼玉県西支部（連絡先　谷口支部長　0493－22－1361）
　５月29日（日）ＰＭ3：00　東松山市内の紫雲閣に於いて予定
大分県支部（連絡先　楢崎支部長　0975－46－0246）
　６月５日（日）ＡＭ11：00　大分市内に於いて
大阪支部（連絡先　近藤支部長　06－322－0317）
　６月11日（土）ＰＭ6：00　大阪市内の東洋ホテルに於いて
山形県支部（連絡先　平吹支部長　0236－43－3093）
　６月12日（日）ＡＭ11：00予定　山形市内に於いて
山梨県支部（連絡先　加藤支部長　0552－52－8212）
　６月17日（金）ＰＭ7：00　甲府市内の紫玉苑に於いて
中野支部（連絡先　落合副支部長　3314－2318）
　６月23日（木）ＰＭ6：00　母校ファカルティークラブに於いて
岩手県支部（連絡先　小田嶋幹事　0196－35－9947）
　６月25日（土）ＰＭ1：00　盛岡市内に於いて
高知県支部（連絡先　三輪支部長　0888－60－6067）
　６月25日（土）ＰＭ6：00　高知市内の魚竹本店に於いて
熊本県支部（連絡先　吉永支部長　0968－74－2439）
　６月26日（日）ＰＭ1：00　熊本市内の水前寺共済会館に於いて
愛知県支部（連絡先　鈴木支部長　0561－84－1557）
　６月中予定　　会場未定
宮城県支部（連絡先　中村支部長　022－278－5355）
　６月中予定　　仙台市内に於いて
東芝支部（連絡先　田中支部長　3457－8284）
　７月１日（金）ＰＭ2：00　母校新宿校舎に於いて
新宿支部（連絡先　高野支部長　3342－1211内2659）
　７月２日（土）ＰＭ6：00　母校新宿校舎に於いて
神奈川県５支部合同（川崎、横浜、湘南、相模、西湘）
　（連絡先　太田支部長　044－766－8795）
　７月２日（土）ＡＭ11：00　母校新宿校舎に於いて
富山県支部（連絡先　丸山幹事　0764－42－4161会社）
　７月３日（日）ＰＭ4：00　富山市内に於いて
栃木県支部（連絡先　阿久津支部長　0286－75－0511）
　７月24日（日）ＡＭ11：00　宇都宮駅前南大門に於いて
京滋支部（連絡先　伊藤支部長　0749－24－6500）
　７月中予定　　会場未定
北海道支部（連絡先　馬淵支部長　011－781－7854）
　９月10日（土）ＰＭ6：00　札幌市内に於いて
東京支部（連絡先　坂田支部長代行　0423－65－2955）
　９月18日（日）ＰＭ1：00　母校新宿校舎に於いて
日本電気支部
　９月22日（木）ＰＭ6：30　母校新宿校舎に於いて
福井県支部（連絡先　干田支部長　0788－22－5565）
　９月24日（土）ＰＭ6：00　会場未定
台湾校友会（連絡先　劉支部長　中華民国02－596－9565）
　９月30日（金）　　台北市内に於いて
静岡県支部（連絡先　山崎支部長　0542－82－3855）
　９月中予定　浜松市内に於いて
秋田県支部（連絡先　富樫支部長　0188－46－1061）
　秋予定
兵庫県支部（連絡先　岡本支部長　0798－47－4372）
　10月29日（土）ＡＭ10：00　全国大会会場に於いて
新潟県支部（連絡先　谷口支部長　0254－26－0087）
　10月30日（日）ＰＭ1：00　新潟市内のニュー安兵衛に於いて
青森県支部（連絡先　外川支部長　0172－36－4034）
　10月初旬頃予定　　西北地方に於いて予定
鳥取県支部（連絡先　尾崎支部長　0858－23－1531会社）
　10月中旬頃予定　　倉吉市内予定
長野県支部（連絡先　鳥羽支部長　0268－22－1215会社）
　11月19日（土）ＰＭ5：00　松本市内に於いて
沖縄県支部（連絡先　松田幹事　098－832－9946）
　11月22日（火）ＰＭ7：00　ロイヤルガーデンに於いて
福岡県支部（連絡先　麻生支部長　092－472－7883会社）
　11月中予定　ＰＭ6：00
長崎県支部（連絡先　江口支部長　0958－79－0395）
　12月初旬頃　忘年会を兼ねて　長崎市内に於いて

第11回全国大会（兵庫県大会）開催のお知らせ

社団法人工学院大学校友会
校友会会長　南雲　芳夫
大会実行委員長　岡本　聖治（耕一）

魅力ある街　神戸に……

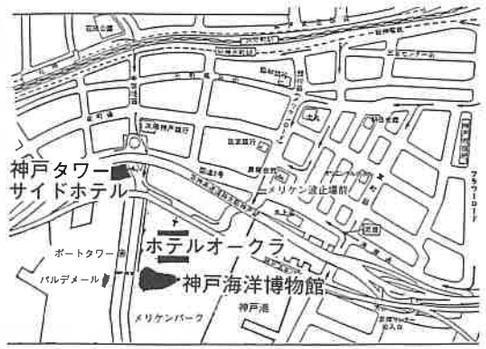
第11回工学院大学校友会全国大会を、兵庫県神戸市において開催することとなりました。全国校友が神戸に集い旧交を温めるとともに、完成した新宿校地再開発の話等、発展する学園のこと、そして校友の近況を語り合い、想い出を振り返りながら有意義な楽しい一時を過ごす大会でありますよう願っております。
紅葉する六甲の連なりを背に、自然が作り出した独特の地形を持つ街並み神戸。世界最長の明石海峡大橋を眺めながらの船上パーティー。

鮮やかなファッションの街
　潮風漂うエキゾチックな顔
　　イルミネーションの光を放つロマンチックな夜を

……ご夫妻共々ご参加くださいますようご案内申し上げます。

実施要項

■日　時　　平成６年10月29日（土）
■場　所　　神戸市中央区メリケンパーク内
【受　　付】10：30～13：00　神戸海洋博物館（玄関）
【博物館見学】受付後順次入館見学（各自早めに昼食を済ませてください）
【大会式典】13：00～14：30　神戸海洋博物館ホール
　記念講演　「明石海峡大橋にかける夢」（仮題）
【船上パーティー】15：00～17：30　パルデメイル（全船チャーター）
※船酔い：酔止め薬用意。又ドクターも乗船しますので船酔いの心配はありません。
【会　　費】17,000円/ 人
【そ　の　他】自由参加
☆宿泊　ホテルオークラ　(078)333-0111
　　ツイン　　18,500円/ 人（朝食付）
　　トリプル　14,000円/ 人（　〃　）
　神戸タワーサイドホテル（078)351-2151
　　シングル　　6,500円/ 人（朝食付）
　　ツイン　　6,000円/ 人（　〃　）
行楽シーズンでもありますので早めに申込みください。
（７月末日までにお願いします）
☆観光　30日（日）自由行動
　ご希望により支部会員がご案内致します。
　※神戸市内、北野町異人館通り、南京街、六甲山、有馬、国宝姫路城など
【申込み締切り】平成６年８月31日
【申込み送金方法】
　下記のいずれかご便宜な方法でお願いします。
①郵便振込みの場合…添付振込み用紙をご利用ください。
　※出席者名簿の資料にします。裏面通信欄にご記入ください。
②銀行振込みの場合…百十四銀行湊川支店
　普通預金　454－0091128
　工学院大学校友会兵庫県大会　会計　奥濱　良明
　※郵便振替用紙裏面に記入の上ＦＡＸ願います。
【お問合せ】校友会本部（03)3342－2064 吉岡事務局長
兵庫県大会事務局　大和化成㈱　奥濱　良明
　　ＴＥＬ：（078）577－1345
　　ＦＡＸ：（078）577－6836
兵庫県支部事務局　珈琲倶楽部Ｒ　岡本　聖治
　　ＴＥＬ：（078）391－0935
　　ＦＡＸ：（078）391－3135



表彰（平成５年度総会に於いて）

(1) 感謝状贈呈

① 表彰規程第４条第２号

支部長　中央　千代田　節雄
文京　岩田　俊二
台東　猪股　重義
渋谷　小林　成一
豊島　渡辺　一男
板橋　小野塚　政雄
北　鈴木　光夫
足立　荻野　栄吉
多摩　池津　照明

② 表彰規程第４条第３号

支部長　広島県　舛井　寛一

(2) 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学科学年	氏名
大学院	機械工学専攻修士課程２年	松尾　輝之
	工業化学専攻修士課程２年	須貝　幸廉
	電気工学専攻修士課程２年	市瀬　紀彦
	建築学専攻修士課程２年	神永　敏弘
大学	第１部	
	機械工学科２年	相澤　秀憲
	〃	御苑　友治
	第２部	
	機械工学科２年	鷹野　重将
	第１部	
	工業化学科２年	柳田　茂樹
	化学工学科２年	小林　あづさ
	〃	長沼　環
	第１部	
	電子工学科４年	粂　勲
	第２部	
	電気工学科電子工学コース３年	木田　肇
	〃　情報工学コース３年	滝川　武志
	第１部	
	建築学科建築学コース２年	村田　知厳
	〃　都市デザインコース２年	田所　真幸
	第２部	
	建築学科２年	川田　明彦
専門学校	昼間部	
	土木科２年	菊地　賀津男
	機械科Ｂ２年	紺谷　尚央
	建築科Ａ２年	平田　諭
	夜間部	
	応用化学科２年	長崎　孝祐
	電子情報科２年	甚野　彰男
	建築設備科２年	林　昇二
高等学校	普通科２年	澤　和之
	〃	金沢　太崇
	普通科３年	内桶　淳一
	普通科卒業生	真島　満

訃報

佐藤恵治　千葉県支部顧問
平成５．７．28　逝去

金子貞治　元長野県支部長
平成５．８．１　逝去

ハナ　肇　東京支部長
平成５．９．10　逝去

社団法人 工学院大学校友会

第49回評議員会 第38回総会 開催お知らせ

会長　南雲　芳夫

日　時　平成６年５月29日（日）13時～15時
場　所　工学院大学新宿校舎高層棟３Ｆ
０３１２教室　大階段教室
議　案　第１号　平成５年度事業報告、収支決算報告書並びに財産目録承認の件
◎同上監査報告
第２号　事業計画（案）並びに収支予算（案）承認の件
第３号　名誉会員の推戴の件
第４号　施行細則変更の件

（注１）本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答ください。
（注２）施行細則第10条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

記念講演『第三の波と求められる教育』
工学院大学　学長　大橋　秀雄
議事に先立ち大橋新学長に講演をお願いしてあります。
多数ご参加下さい。

懇親会　（議事終了後、於28Ｆ）
理事長・学長を始め学校側の多数のご来賓をお招きしてあります。

平成５年度事業報告書

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成（定款第５条第１項）	１．学校法人工学院大学と協議の上、援助を行った。 ２．学園将来計画に協力した。
学校に在籍する学生、生徒の学習活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成（定款第５条第２項）	１．学生、生徒の研修援助。 優秀な学生の表彰を行った。
会誌および学術図書の刊行（定款第５条第３項）	１．校友会会報114号を発行した。 ２．会員名簿を刊行した。 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成を行った。
学術に関する講演会および見学会等の開催（定款第５条第４項）	１．学術講演会を開催した。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置（定款第５条第５項）	１．第11回全国大会（兵庫）の準備活動を支援した。 ２．懇親会等を開催した。 ３．支部の支援を行い、支部組織の活性化を図った。
学校の行う就職あっせんおよび紹介に関する援助（定款第５条第６項）	１．就職あっせん、事業所の紹介等の援助を行った。

平成5年度収支計算書

平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
(収入の部)			
基本財産運用収入	450,000	426,000	24,000
基本財産利息収入	(450,000)	(426,000)	(24,000)
会費収入	23,922,750	23,922,750	0
会費収入機械工学同窓会	(3,841,000)	(3,841,000)	(0)
会費収入応化会同窓会	(2,766,000)	(2,766,000)	(0)
会費収入電気同窓会	(3,458,000)	(3,458,000)	(0)
会費収入建築学科同窓会	(2,474,000)	(2,474,000)	(0)
会費収入高校同窓会	(3,853,750)	(3,853,750)	(0)
会費収入専門学校同窓会	(7,530,000)	(7,530,000)	(0)
維持協力会費収入	3,500,000	3,654,000	△154,000
維持協力会費収入	(3,500,000)	(3,654,000)	(△154,000)
雑収入	6,750,000	7,171,212	△421,212
受取利息・配当	(6,750,000)	(6,655,009)	(94,991)
寄付金収入	(0)	(49,940)	(△49,940)
雑収入	(0)	(466,263)	(△466,263)
特定預金取崩収入	0	10,057,492	△10,057,492)
会館預金取崩収	(0)	(10,000,000)	(△10,000,000)
退職有価取崩収入	(0)	(5,441)	(△5,441)
協力会費取崩収入	(0)	(52,051)	(△52,051)
当期収入合計 (A)	34,622,750	45,231,454	△10,608,704
前期繰越収支差額	3,000,000	3,903,478	△903,478
収入合計 (B)	37,622,750	49,134,932	△11,512,182
(支出の部)			
事業費	12,334,000	10,760,131	1,573,869
会報・出版費	(2,346,000)	(1,784,372)	(561,628)
学生・生徒奨励金	(850,000)	(803,477)	(46,523)
支部対策費	(4,300,000)	(4,288,536)	(11,464)
総会等大会費	(1,700,000)	(1,707,681)	(△7,681)
予備費取崩(大会費)	(770,000)	(770,000)	(0)
広報部費	(198,000)	(105,022)	(92,978)
組織部費	(200,000)	(38,630)	(161,370)
事業部費	(470,000)	(238,105)	(231,895)
企画部費	(200,000)	(9,270)	(190,730)
協力会費割戻金	(1,300,000)	(1,015,038)	(284,962)
運営費	11,267,000	11,348,142	△81,142
本部会議費	(937,000)	(1,313,447)	(△376,447)
役員交通費	(800,000)	(287,770)	(512,230)
旅費・交通費	(200,000)	(51,510)	(148,490)
通信費	(5,280,000)	(4,566,789)	(713,211)
振替手数料	(100,000)	(72,485)	(27,515)
事務用品費	(700,000)	(370,096)	(329,904)
消耗備品費	(100,000)	(37,957)	(62,043)
印刷製本費	(1,840,000)	(1,456,155)	(383,845)
修繕費	(100,000)	(45,423)	(54,577)
賃借費	(280,000)	(279,336)	(664)
対外費	(200,000)	(142,504)	(57,496)
慶弔費	(300,000)	(246,800)	(53,200)
公租公課	(130,000)	(22,110)	(107,890)
雑費	(300,000)	(251,449)	(48,551)
消耗什器器具	(0)	(2,204,311)	(△2,204,311)
人件費	8,291,000	8,290,675	325
給与手当	(7,181,000)	(7,074,914)	(106,086)
福利厚生費	(610,000)	(715,761)	(△105,761)
退職給与引当預金支出	(500,000)	(500,000)	(0)
固定資産取得支出	0	7,465,060	△7,465,060
固定資産取得出	(0)	(6,952,533)	(△6,952,533)
投資有価証券購入支出	(0)	(512,527)	(△512,527)
特定預金支出	2,700,000	8,434,377	△5,734,377
会館建設引当預金支出	(0)	(5,734,377)	(△5,734,377)
減価償却引当預金支出	(200,000)	(200,000)	(0)
協力会費引当預金支出	(2,500,000)	(2,500,000)	(0)
予備費	800,000		
	△770,000		30,000
当期支出合計(C)	34,622,000	46,298,385	△11,676,385
当期収支差額(A)−(C)	750	△1,066,931	1,067,681
次期繰越収支差額(B)−(C)	3,000,750	2,836,547	164,203

(注) △印は予算比超過となる金額である。

平成5年度貸借対照表

平成6年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1.流動資産	87,600,084	1.流動負債	84,763,537
2.固定資産		2.固定負債	1,878,183
基本財産	10,000,000	3.正味財産	124,335,435
その他固定資産	113,377,071	(うち基本金)	(10,000,000)
固定資産合計	123,377,071		
合計	210,977,155	合計	210,977,155

平成5年度財産目録

平成6年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1.現金・預貯金	87,123,638	1.一般預かり金	102,537
2.短期有価証券	476,446	2.在学生会費預り金	84,661,000
固定資産		3.退職給与引当金	1,878,183
1.基本財産引当預金	10,000,000	正味財産	124,335,435
2.什器備品	7,335,806	(うち基本金)	(10,000,000)
3.電話加入権	102,800		
4.長期預金	105,938,465		
合計	210,977,155	合計	210,977,155

平成6年度事業計画(案)

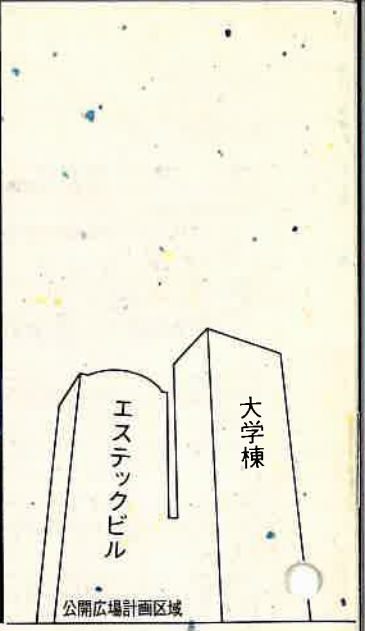
事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1．学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2．学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学習活動および就職指導ならび教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1．学生、生徒の研修援助。 優秀な学生を各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1．校友会会報の発行。 2．会員名簿の刊行。 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。 3．校友会案内の企画。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1．学術講演会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置 (定款第5条第5項)	1．第11回全国大会(兵庫)の開催を支援する。 2．懇親会等を開催する。 3．支部の支援、支部組織の活性化を図る。
学校の行う就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1．就職あっせん、事業所の紹介等の援助を行う。

平成6年度収支予算書(案)

平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

(単位：千円
△印は前年度より減を示す)

科目	予算額	前年度予算額	増減
1 収入の部			
基本財産収入	220	450	△230
会費収入 (6単体)	29,372	23,922	5,450
協力会費収入	3,500	3,500	
雑収入	3,406	6,750	△3,344
当期収入合計	36,498	34,622	1,876
前期繰越収支差額	3,000	3,000	
収入合計	39,498	37,622	1,876
2 支出の部			
●事業費	(12,450)	(11,564)	(886)
会報・出版費	2,530	2,346	184
学生・生徒奨励金	750	850	△100
支部対策費	4,500	4,300	200
総会等大会費	2,000	1,700	300
広報部費	200	198	2
組織部費	200	200	
事業部費	470	470	
企画部費	500	200	300
協力会費割戻金	1,300	1,300	
●運営費	(11,944)	(11,267)	(677)
本部会議費	937	937	
役員交通費	800	800	
旅費交通費	200	200	
通信費	5,907	5,280	627
振替手数料	100	100	
事務用品費	700	700	
消耗備品費	100	100	
印刷製本費	1,890	1,840	50
修繕費	100	100	
賃借費	280	280	
対外費	200	200	
慶弔費	300	300	
公租公課	130	130	
雑費	300	300	
●人件費	(8,693)	(8,291)	(402)
給与・手当	7,545	7,181	364
退職給与引当預金繰入	500	500	
福利厚生費	648	610	38
●固定資産取得支出	(300)	(0)	(300)
投資有価証券購入	300	0	300
●積立預金	(2,700)	(2,700)	
会館積立預金	0	0	
協力会費積立預金	2,500	2,500	
減価償却引当預金	200	200	
●予備費	(911)	(800)	(111)
当期支出合計	36,998	34,622	2,376
当期繰越収支差額	0	0	
次期繰越収支差額	2,500	3,000	△500



公開広場建設風景

[illegible]2号第1号　発行所●社団法人工学院大学同窓会　〒163-91　東京都新宿郵便局私書箱第13号　東京都新宿区[illegible]24-2　TEL 03(3342)2064
東書東京91108番　発行年月日●平成[illegible]年4月25日
印刷所●弘報印刷株式会社　〒104 東京都中[illegible]5-11　TEL (3552)9731